

お はり

尾針

～尾張一族とのゆかりが指摘される磐座～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 尾針神社
5. アクセス

資料
番号

K6

初版：2025.10.30



1. おすすめポイント

★伊福部連（尾張連の一族）の居住地であったと言われる場所に座す磐座

この地の周りには「伊福」の付く地名があります。
地図を眺めてゆかりを想像してみてください

★尾治針名真若比咩（おじはりなまわかひめ）神社

この地の北方約2kmの山の中腹にある神社、やはり尾張一族と関係がありそうです

※尾治針名真若比咩神社に掲げられている由緒によれば、東にある山の名は半田山ではなく本来は「針田山」である由

2. 説明

「八木敏乗，岡山の祭祀遺跡（岡山文庫 145）．日本文教出版，1990，p 65」より引用させていただきます。

尾 針

岡山市京山一丁目

岡山駅の北西約一・五kmばかり、京山動物園の東麓（もと、御津郡上伊福村別所）、民家に囲まれた小高い丘に、閑静なたたずまいの社叢に包まれ、その頂部に南面して、式内社尾針神社が鎮座する。

この地、古くは「和名抄」東急本に「乎八利」の訓があり、御津郡伊福郷はこの地に当たるとされ、尾張ノ連（天香山命裔）ノ類族、伊福部ノ宿彌がこの地に居住したとあり、尾張一族が奉じた祖神を祭祀したものであろう。

そのせいか「延喜式神名帳」には御津郡「尾針神社」祭神、倭建命、神社明細帳、一八七〇年『現祭神、（天火明命）とある。

景行朝の頃、中央と吉備との関わりにおいて両者はごく親密な間柄にあったか、あるいは、そのような関係を保たねばならない事情があったのであろうか、いずれにせよ、倭建命の母（播磨

麿稻目大郎姫）の出自は吉備氏からであり、命の妃も又、吉備武彦の娘、吉備穴戸武媛であった。このような状況の中で、その頃、大和の大王家では、まつろわぬ東国の征討を決し倭建命を遣わして、征圧させるに際し、外戚吉備武彦は吉備の兵を率いて、東征に参陣したことを「紀」は伝えている。

尾張國中嶋郡、神名式内社、尾張大国霊神社（愛知県一宮市）の神座（磐座）は本殿と祭文殿の中間左側（向かって）に、中央にやや、扁平な巨石を配し、その周囲に五個の巨石を建て並べた状態で、環状に配置しており、それぞれの石の大きさは、ほぼ一・五m程度の石を当てている。「張州府志」には「本祠之庭、有磐石高数尺祀宮尤敬焉」と見える。

岡山の尾針神社と、前記尾張大国霊神社、両社の関連については明らかでないが、これら両者の神座石組（磐座）の造形式において人為的特徴の共通性がうかがわれる点が注目される。



3-1

社殿の背後（北側）



3-2



3-3



3-5



3-4

磐座の北側から神社方向（南）を見る

4. 尾針神社

2020.5.20



4-1

御祭神

- ・天火明命
- ・大氣都姫神



4-2



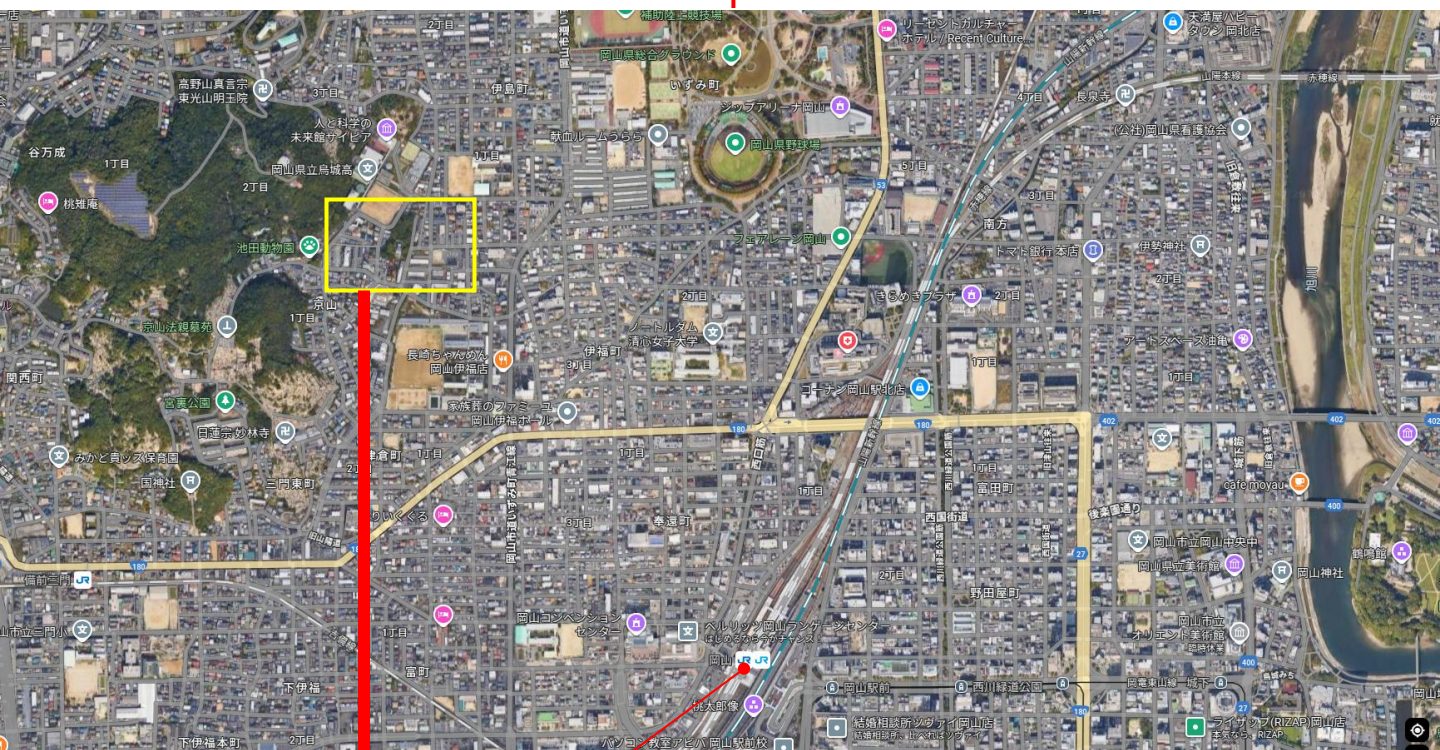
4-3

社殿背面（磐座側）に意味
ありげな鳥居が・・・



4-4

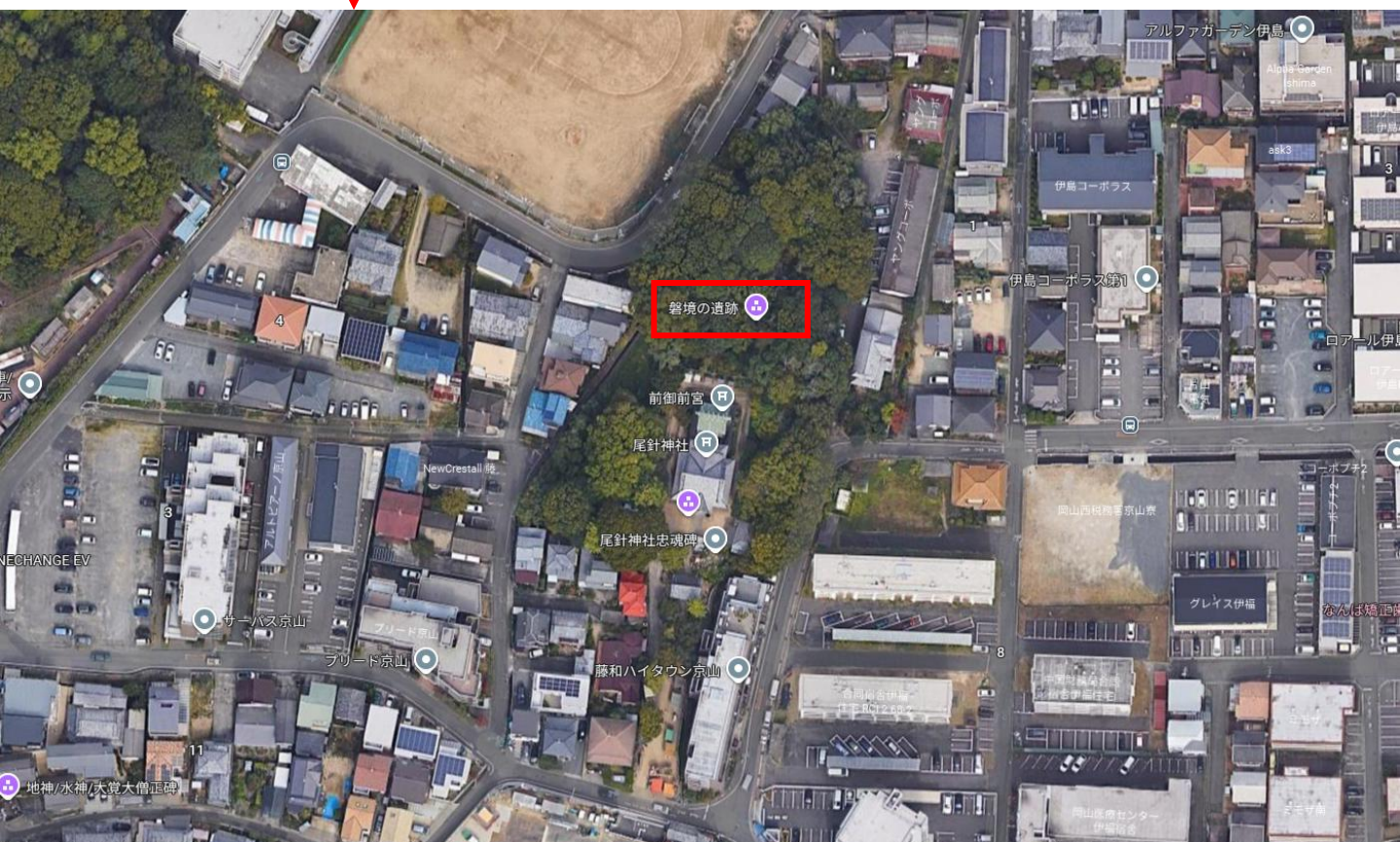
5. アクセス



Google Mapより

J R 岡山駅

JR岡山駅から車で10分、徒歩で30分くらいです



Google Mapより

参考文献

- 1) 八木敏乗, 岡山の祭祀遺跡 (岡山文庫 145) .
日本文教出版, 1990, p 173